特集

エディトリアル

地域医療振興協会 顧問　北村 聖

Well-beingを正々堂々と特集のテーマに取り上げた．Well-beingは健康と同義語であるとの解釈もあり，医学雑誌のテーマに「健康」を取り上げるのはまさしく王道であり，堂々とした態度である．そこで，再度，読者諸兄に問いたい，健康とは何か？ Well-beingとは何か？

Well-beingが最初に登場したのは，1946年の世界保健機関（WHO）憲章である．

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

この文章は健康の定義であり，Well-beingは「健康」とも「良好な状態」とも訳されている．さらに，意訳的には「満ち足りた状態」とか「幸福」「福祉」などの訳語もある．今，流行りのSDGsの目標３では“Good Health and Well-being”は「すべての人に健康と福祉を」と訳されている．昨今では，医学・医療・福祉の領域を飛び出して，Well-beingは社会学，経済学，心理学などの世界や政治でも広く使われ，健康の概念を拡大し，「人として喜びを持って生きていく」といった哲学的な領域まで拡大しているように見える．

一方，WHOの健康の定義に，スピリチュアルに良好な状態を加えようとする動きがあった．霊的な健康と訳するのが一般的であるが，個人的には，気合とするのが好きであった．結局は改定にはつながらなかったものの，我が国においてはspiritual の意味も包含しWell-beingのもつ主観的要素を強調して「生きがい」と捉える向きもある．

特集を組む際に患者・家族に加え，医師・看護師・介護者を含めた医療人のWell-beingも考えてみたいと思った．さらに，哲学とは対極にある「科学的根拠に基づく医療」の中でのWell-beingも考えたいと思った．すなわち，比較対照試験のOutcomeを単に血圧が下がったかどうかではなく，Well-beingに良好な転帰をもたらしたかで評価してほしいと思った．結局，後者は実現しなかったものの，Well-beingはおそらく科学としての医学・医療と人間の生きざまを考える哲学とを結びつける魔法の言葉になると信じている．

●編集委員のメンバー北村聖先生からのメッセージ
https://www.youtube.com/watch?v=gm8mVukLZdE